

教育・保育目標	あふれる笑顔、つながる心、たくましく育つわかば
重点目標	人とのつながりを大切に、心も体もたくましさ具备了笑顔のあふれる子どもを育成する

項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
----	------	-------	------	------	-------	-----	---------

学力の向上	保育の実践 学びを大切に	主体性を はぐくむ 遊び環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的に遊ぶ姿を保護者に月に2回以上、発信する。</li> <li>子どもの姿が夢中になって遊ぶ姿や心弾ませ遊ぶ姿について、全職員にむけてクラス毎に発表する機会をもち、遊びの内容について共通認識するとともに、子ども理解を深める。</li> <li>学年や棟で『保育ウェブ』を使った話し合いをし、子どもが自ら遊び、遊び込むことができる保育室の環境作りを行う。</li> <li>自園の実態に応じた教育課程の編成ができるよう、教育課程の見直しを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者アンケートにおいて「こども園は、子どもの発達や興味関心に応じた教育・保育を行い、子どもの意欲や主体性が育まれるように努めている。」と回答した割合がそれぞれ85%以上になる。</li> <li>子どもの育ちや学びを月に1回以上、クラスの職員や棟ごとに深くよみとり、保育ウェブをもとに主体性を大切に保育展開を計画的に行う。</li> <li>自園の実態に応じた教育課程の見直しを、期ごとに1回、各学年や全職員で行う。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者アンケートにおいて「こども園は、子どもの発達や興味関心に応じた教育・保育を行い、子どもの意欲や主体性が育まれるように努めている。」と回答した割合が85%以上の肯定的な回答を得ることができた。</li> <li>クラスや棟ごとでの会議を月1回以上行い、保育ウェブの作成を通して子どもの姿を深く話し合った。それに基づき、保育の見直しや環境の再構成など計画的に行うことができた。だが、乳幼児間や幼児の各棟間の保育について、情報共有が少なかった。保育について深めていた。乳児として保育を深めていくことはできなかった。</li> <li>教育課程の見直しは期ごとに1回行い、それを指導計画に活かすことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>乳児は各学年で共有した子どもの姿を乳児間で共有する際、発達の連続性について語り合う機会をもつ。</li> <li>幼児は棟内の職員で共有した子どもの姿を、他棟とも共有する機会をもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>回遊できる園舎であり、真ん中に園庭があることから、子どもがお互いの姿を見て刺激を受けたり情報共有したりできるところが利点である。</li> <li>園庭遊びと室内遊びの時間を棟で分けるのではなく、クラスの中で半数ずつくらいに分けることで、職員が他の棟の子どもの姿を見て情報共有することにつながるのではないかと。</li> </ul>
		自然環境 の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>園庭の自然環境を通して、子どもの豊かな感性が育まれるよう、担当から各学年に、栽培物や栽培物に必要な世話について発信する。</li> <li>季節によって変化する花や草木に関心をもち遊びに取り入れたり、生き物の生態に興味をもって観察したり育てたりできる環境を整える。</li> <li>ビオトープ内の生態調査を行い、生き物の発見や観察ができるよう定期的に手入れを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>樹木や園芸植物、野菜の生育状況に応じて定期的に季節ごとに1回以上、水やりや追肥を行う。</li> <li>園庭の草木や花の名称や場所が分かるような視覚物の作成を季節ごとに1回以上行う。</li> <li>子どもと一緒に虫を見つけた場所に印を貼る等、虫の生態について知識を深められるような園庭マップの作成を行う。</li> <li>保護者アンケートにおいて「こども園は、子どもの豊かな感性を育むための園に自生する自然の保持や栽培物の環境を工夫して整えている。」と回答した割合が90%になる。</li> <li>2か月に1回以上、ビオトープの水質を点検したり藻を取ったり等、子どもと共に環境を整える。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>担当の発信により、担当以外の職員も栽培物の世話を行うことができた。さらに、質の悪い畑や花壇の土壌改善が必要だと考え、地域の方との連携を図り、環境の改善に取り組んだ。それにより、様々な野菜や植物が育ち、それらを介した豊かな教育保育活動につながった。</li> <li>保育者が野菜や花等の栽培計画を年間通して行ったり、季節に1回以上の視覚物の作成や園庭マップを設置したりした。それにより、季節ごとに栽培する野菜や自然物の季節の移り変わりの違いに気付いたり、生き物の生息場所や生態に興味・関心が増えたりする姿が見られた。一方で、酷暑により園庭で遊ぶ機会が減り子どもが水をあげたり野菜の生長過程を見たりすることが少なかった。</li> <li>保護者アンケートにおいて、「こども園は、子どもの豊かな感性を育むための園に自生する自然の保持や栽培物の環境を工夫して整えている。」という項目で98%以上の肯定的な回答を得ることができた。</li> <li>町の先生を招くことで、必要な水質や生息する生き物の生態について学んだことが、2か月に1回以上の環境維持につながった。それにより、子どもが季節の虫やビオトープの話に興味をもったり、職員と共にビオトープの環境について知ったりすることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>酷暑における栽培活動について、保育で可能な取り組みについて検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の田んぼの改良を進めているため、子どもが泥んこ遊びや田植えの経験をすることができると良い。</li> </ul>
豊かな心・健やかな体	自分も人も大切に する子どもの育成	互いの よさを 認め合う 保育	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの自己肯定感を高められるよう、一人一人の子どもの個性をつかみ、それぞれの気持ちや考え、行動などを尊重した愛情深い関わりを行う。</li> <li>子どもが日常生活の中で年齢に関わらず多様な子どもと関われる保育を行う。</li> <li>子どもと保育者の人権意識が高まるよう、日々の保育の中で互いの考えや気持ちに着目した振り返りや、職員同士の話し合いを行う。</li> <li>人権に関するブロック研修、園内研修、保護者研修をそれぞれ年に1回以上行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者アンケートにおいて「こども園は自分を大切にしたり他の人を思いやりたり生命の大切さを感じたりする心を育む教育・保育に取り組んでいる。」と回答した割合が90%以上になる。</li> <li>保護者アンケートにおいて「保育者は、子どもに愛情深く関わっている。」と回答した割合が90%以上になる。</li> <li>クラス間を超えて遊びに行く子どもの所在確認等、クラス間を超えた職員連携及び情報共有を週に一回以上行う。</li> <li>幼児は週に一回以上、子ども同士が互いの気持ちや考えを伝え合ったり相談したりする機会を設ける。乳児は月に一回の個人指導計画の作成の際、一人一人の思いに着目した検討を行う。</li> <li>講師を招聘する研修を年に1回以上行うと共に研修への参加やDVDの視聴などを行い、その内容を協議し人権意識を高めている。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者アンケートにおいて「こども園は自分を大切にしたり他の人を思いやりたり生命の大切さを感じたりする心を育む教育・保育に取り組んでいる。」と回答した割合が97%以上の肯定的な回答を得ることができた。</li> <li>保護者アンケートにおいて「保育者は、子どもに愛情深く関わっている。」と回答した割合が99%以上であった。</li> <li>子どもが自クラスに関わらず過ごしたい場所で過ごしてよいという認識が職員間で共有されていることで、毎日のように所在確認等の連携や、その場でどのように遊んでいるかなどの情報共有を行えた。</li> <li>幼児は子どもの発達段階を考慮し、3、4歳児は秋季以降、5歳児は通年週に一回以上、子どもの思いや考えを共有する機会を設けられた。そこでは子ども同士の思いの衝突に関する振り返りがあることで、人権意識の向上につながった。また、乳児は個人指導計画の中で個々の姿を大切に計画を立案することで、職員の子どもの人権を尊重する姿勢につながっている。</li> <li>講師を招聘した研修を行い、全職員が参加し人権意識を高めた。また、保護者と職員に向けた動画研修を行い、子どもの権利について学ぶ機会をもった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども、保育者の人権意識を高める教育・保育は次年度も継続して行う。研修に関しては全体会などに不参加の職員にもその学びを共有できるように、参加者からの情報共有の機会を設けたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者アンケートの回答率が高いことと、肯定的な回答が多いところが良い。</li> </ul>

		健康な心と体を育む	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食べることや食材に興味をもてるよう、栽培活動や旬の食材に関する掲示と給食のメニュー掲示をしたり、年齢に応じた食体験を実施したりする。</li> <li>・自らの健康や心身に関心をもち、生活習慣を意識できるよう「ほけんの話」などの保健指導を季節や発達段階に応じて適時行う。</li> <li>・子どもが自ら体を動かして遊びたくなるよう、室内外の環境や教材・遊具を工夫しながら活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者アンケートにおいて、「こども園は、給食や栽培活動等を通して子どもの食への関心が深まるようにしている。」と回答した割合が80%以上になる。また、各学年で栽培の担当を決め、調理とも連携を図る。</li> <li>・保護者アンケートにおいて、「保育者は、子どもの基本的な生活習慣が身に付くように、個々に応じて関わっている。」と回答した割合が90%以上になる。月に一回以上保健、各担任で連携を図り、健康に関する教材作成や指導を行う。</li> <li>・保護者アンケートにおいて、「子どもは、こども園での遊びを通して体を動かして遊ぶことが好きになったと感じる。」と回答した割合が90%以上になる。また、発達段階に応じた体を動かす遊びを職員間で協議し、室内外に構成をする。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者アンケートにおいて「こども園は、給食や栽培活動等を通して子どもの食への関心が深まるようにしている。」と回答した割合が95%以上あった。また、調理と連携して各学年で栽培した野菜でクッキング体験をしたり食べたりすることで年齢に応じた食体験を実施できた。</li> <li>・保護者アンケートにおいて、「保育者は、子どもの基本的な生活習慣が身に付くように、個々に応じて関わっている。」という項目において95%以上という肯定的な回答が得られた。季節や子どもの姿に応じた「ほけんの話」の内容を保健、各担任で相談しながら進めた。教材に関しては定例とするのではなく、必要なタイミングで適宜補修、作成を行った。</li> <li>・保護者アンケートにおいて、「子どもは、こども園での遊びを通して体を動かして遊ぶことが好きになったと感じる。」という項目において90%以上という肯定的な回答が得られた。また、職員がマラソンをする機会を設けたことにより、習慣的に体を動かす楽しさを味わい、主体的にボール、縄遊び等、運動遊びをする姿が増えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園庭環境について話し合う際に、物的環境が必要となる運動遊びについても検討を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の公園でボール遊びを禁止している所が増えてきているので、ボール遊びができる場を増やしていけると良い。</li> <li>・マラソンは良い取り組みだと思うので、マラソン大会等を開催し、目的や楽しみが継続すると良い。</li> </ul>
開かれ信頼される学校園	安心・安全な園づくり	危機管理の徹底	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園で起きたリスクに対してすぐに検証し、再発防止策を伝達ノートで周知する。また職員会議でも再度周知し、一人ひとりの危機管理能力の向上を目指す。</li> <li>・毎月簡易的にリスクが生じた場所を視覚的な掲示を用いて周知を行う。</li> <li>・様々な状況や場面で適した行動ができたかどうか各自が反省と検証をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月に一回以上、園で起きたリスクに対する検証及び他園の事例に基づいた自園でも起こりうるリスク対策を検討することで、再発防止に努める。</li> <li>・月に一回以上、視覚的掲示物を参照する機会を設けることで、危険箇所について知り怪我や事故の防止に努める。</li> <li>・月に一回以上、実際の災害を想定した各避難訓練を行い、職員が各自で判断し臨機応変に行動する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育環境を要因としたリスクは統計からみると少なかったこともあり、起きたリスクに対して早急に改善することができた。</li> <li>・毎月簡易的にリスクが生じた場所を視覚的に掲示していたが、周知不足のため、毎月確認できていない職員もいた。</li> <li>・様々な状況や場面に適した行動ができたか各自が反省と検証を行うことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リスク件数の多い箇所を意識できるよう、リスクの多少を示した視覚的掲示物を確認する日を定例で設ける。</li> <li>・保育環境を要因としたリスクの場所を伝達ノートや職員会議で周知する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リスクの多い箇所を意識し、改善できることはあるかを考えることが大切である。</li> </ul>
		園情報の発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児はクラスだより、乳児は連絡帳に写真を用いて教育保育の可視化を図る。地域へはHPを活用することで園の情報を発信する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児は週1回程度のクラスだよりを通し、乳児は月1回程度写真を用いた連絡帳を通した、保護者への情報発信を行う。</li> <li>・月4回以上ホームページを更新し、日頃の様子や職員研修など園の情報を発信する。</li> <li>・保護者アンケートにおいて「こども園は、icucoやホームページ、こどもだよりなどを通じて園の情報や日頃の様子を発信している。」と回答した割合が90%以上になる。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児は毎週のクラスだよりと2か月に1回の写真を用いた連絡帳、乳児は1か月に1回写真を用いた連絡帳を通した情報発信を行った。また、不定期ではあるが子どもの姿を動画を通して適宜発信した。</li> <li>・HPは1か月に4回、各学年の遊びや育ちを作成したが即時反映できないことが多かった。職員研修は保護者に向けた発信に留まり、地域などに向けたHPの活用などには至らなかった。またHPに対する保護者や地域の方からの反響は一件もないことから、閲覧は少なかったと考えられる。</li> <li>・保護者アンケートにおいて、「こども園は、icucoやホームページ、こどもだよりなどを通じて園の情報や日頃の様子を発信している。」という項目で、約95%の肯定的な回答を得られ、教育保育の理解の促進につながった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・HPは在園児以外の家庭や地域に発信しているものであると共有し、発信内容を工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページのトップに、在園の保護者向け、入園を検討している保護者向け、地域向け等のバナーを作り、見たい情報を選んで見やすい工夫をすると良い。</li> </ul>
		子育ての支援事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者対象の保育参観、保育参加、学級懇談会や個人懇談を実施する。それぞれの会の中で普段の写真や動画を用いて子どもの育ちや学びを共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育参観・学級懇談会に7割以上の保護者が参加する。</li> <li>・保護者アンケートにおいて「こども園は、『子どもが心身ともに健やかに成長してほしい』という保護者の願いに応えている。」と回答した割合が85%以上になる。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育参観の参加は8割以上であったが、クラス懇談会の参加者が少なかった。懇談会に参加した保護者の感想などから、子どもの発達段階における育ちや学びの様子の理解につながったと感じるという声が上がっていることから、懇談会に参加した保護者と参加していない保護者の保育に対する理解の差が感じられる。</li> <li>・保護者アンケートにおいて「こども園は、『子どもが心身ともに健やかに成長してほしい』という保護者の願いに応えている。」に、肯定的に回答した割合が90%以上であった。</li> <li>・園見学日は平均月一回以上設けることができた。また、それぞれの会において平均10世帯以上が参加するなど、多数の参加があった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加したいと思える懇談会の内容を工夫し、参加者の増加を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・懇談会の内容（詳細やテーマ）を事前に保護者に知らせておき、参加することのメリットを感じられるようにすると良い。</li> </ul>
	地域に根ざした園づくり 園運営の推進	にじいろ保育拠点園の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども一人一人の発達や好みの遊びを捉えたにじいろ広場を行うことでにじいろ保育を必要としている子ども達の支援を図る</li> <li>・拠点園として、にじいろ保育や就学に関わる情報を発信し、各園の悩みや就学に向けての流れなどを共有する。</li> <li>・インクルーシブ教育について職員研修を行い、専門性を磨く。また保護者研修会を通して、インクルーシブ教育・保育推進と情報発信を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年10回のにじいろ広場開催に向けて、担当者同士で月1回程度、事前に参加園の子どもの実態等を共有、内容の検討を行い、開催後は毎回遊びの姿の共有や反省点を伝え合う時間を設ける。</li> <li>・ブロック内の園に貸し出せるよう、使用方法のイメージなどにつながる写真を用いた遊具や書籍の貸出リストを作成する。</li> <li>・にじいろ広場において、保護者同士で意見交流する機会を年1回以上設ける。</li> <li>・職員の資質向上につながるような様々な経験の職員が参加する園内研修を月に1、2回程度実施する。また、年に2回保護者研修会を計画し実施し、研修会の様子を発信することで保護者のインクルーシブ教育・保育への理解を深める。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・にじいろ広場は予定回数開催できた。また、にじいろ広場の事前事後には担当者同士で話し合いをする場を設け、子どもの実態に応じた遊びを準備したり、次の広場に活かしたりすることができた。</li> <li>・貸出数の向上につながる工夫（設置図の写真添付など）を含めた遊具や書籍の写真や載せた貸出リストを更新し作成することができた。</li> <li>・にじいろ広場において保護者同士で意見交流する場を設けられた。その場では園の垣根を超えた関連な意見交流が行われた。</li> <li>・月に1、2回は園内において、にじいろ保育対象児について情報共有したり、個別指導計画作成に向けての話し合いをしたりした。職員研修会は年に1回開催し、本園だけでなくAブロックの就学前施設から参加してもらうことができた。保護者研修会は年に2回開催し、研修会の内容に触れたにじいろだよりも併せて発行した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊具と書籍のリストを市内の園所において見ることができ工夫を行い、さらに促進していくことにつなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊具と書籍のリストをホームページに載せておき、物品が増えた際にはメールで知らせる。</li> </ul>

学校関係者評価総括  
 ・職員が働き甲斐をもって働けることが大切である。 ・地域の小学校との連携を増やしていけると良い。 ・地域の力を借りて、子どもの体験や人との関わりをさらに豊かにしていくことができると良い。

次年度に向けた重点的な改善点  
 ・拠点園としてより良い情報発信の仕方を模索していく。 ・地域の小学校や地域の方とのつながりをさらに増やす。

自己評価の基準 A：目標を上回った B：目標どおりに達成できた C：目標をやや下回った D：目標を大きく下回った